

「海に関する海事関係学生意識調査 2018」の実施結果について

掲載誌・掲載年月：日本海事新聞 201905

日本海事センター 企画研究部

主任研究員 松田 琢磨

【ポイント】

- 船員の業務内容だけでなく待遇やワークライフバランスに注目
- 待遇面への期待が大きい一方、人間関係への不安が大きい
- キャリアプラン、ライフステージに沿った働き方の提示も一考を

1. はじめに

2018年8月から12月にかけて、(公財)日本海事センターは、海事関係教育機関の協力を得て、在学生を対象の「海に関する海事関係学生意識調査」(以下、「学生意識調査」)を実施し、19年4月に結果を取りまとめた。この調査は、船員になる可能性の高い海事関係教育機関に就学している学生に進路や職業の選択などについて意見を聞くことで、将来の海事関係の人材育成に資することを目的としている。

協力を得たのは東京海洋大学海洋工学部(海事システム工学科、海洋電子機械工学科)、神戸大学海事科学部(グローバル輸送科学科、マリンエンジニアリング学科)、東海大学海洋学部(航海工学科航海学専攻)の3校6学科、および独立行政法人海技教育機構に属する宮古海上技術短期大学校、清水海上技術短期大学校、波方海上技術短期大学校の3校。調査票を各教育機関に1,357枚発送し、有効回答数は1,006名(男性867名、女性137名)、回収率は74.1%だった。

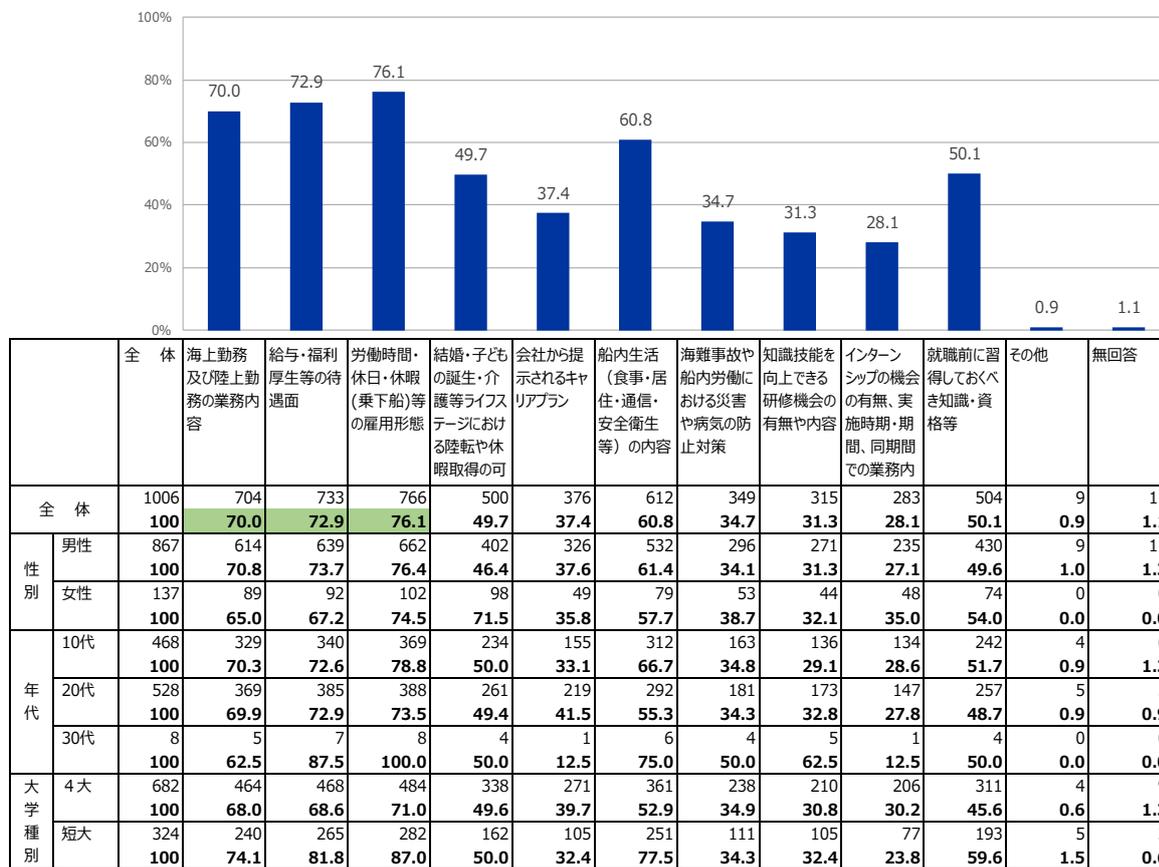
質問は全部で9問あり、船員として就職を希望するかどうか、業務に就職する際に知りたい情報や企業への期待や不安、キャリアプランなどの内容が含まれている。報告書の内容を概要として広く周知することは、今後、日本において船員確保を進めていくうえで必要となる取り組みなどについても示唆をもたらすと考えられるため、本稿では今回おこなわれた学生意識調査の概要を説明し、簡単な考察を加える。

2. 就職活動にあたっての情報

学生意識調査の第一問は、「あなたが現在の希望に関わらず、将来の職業の選択肢として「船員」を検討するにあたり、事前に知っておきたいことはありますか」だ。回答は「労働時間や休日、休暇(乗下船)などの雇用形態」が有効回答数全体の74.9%を占め、次いで「給与・福利厚生などの待遇」(同70.6%)、「海上勤務の内容」(同67.3%)、「結婚・子どもの誕生・介護などライフステージにおける陸上職への転換や休暇取得の可否」(同55.4%)の順となった。とくに女性では「結婚・子どもの誕生・介護などライフステージにおける陸上職への転換や休暇取得の可否」が有効回答数のうち73.7%を占め、男性の52.6%を大幅に上回った。とくに女性にとって人生の節目に自由度(陸転や休暇取得)があるかが関心事項であることがうかがえる。

とくに知りたいことについての自由記述欄を見ても、男女問わず船員としての労働時間や業務内容より、「給与・手当」「休日・休暇」「結婚・出産・育児」といった待遇面に関心が高いことが示唆された。

グラフ 1. 第一問回答結果「受験にあたり確認・知りたいこと」



※上段：実数 下段：%

【回答者：対象者全員】

第二問は、「あなたの現在の希望に関わらず、あなたが船員になるために就職活動をした場合、会社の入社試験を受けるにあたって事前に会社に確認したいことや知りたいことはどのようなことですか」だ。全体の回答では「労働時間や休日・休暇(乗下船)等の雇用形態」が76.1%、次いで「給与・福利厚生等の待遇面」(72.9%)となった。次いで「海上勤務及び陸上勤務の業務内容」(70.0%)、「船内生活(食事・居住・通信・安全衛生等)の内容」(60.8%)、「就職前に習得しておくべき知識・資格等」(50.1%)、「結婚・子どもの誕生・介護等ライフステージにおける陸転や休暇取得の可否」(49.7%)の順となった。業務内容についても関心は高いが、それよりもワークライフバランスや待遇面への関心が高いことを、第一問に続いてうかがわせる結果となった。

こちらも女性では「結婚・子どもの誕生・介護などライフステージにおける陸上職への転換や休暇取得の可否」が有効回答数のうち74.5%を占め、男性の46.4%を大幅に上回り、この問題に対する関心の高さをうかがわせている。

3. 就職への期待と不安

第三問と第四問は船員として就職するにあたっての期待不安について問うものだった。第三問は船員として就職した場合に企業に期待する内容についての質問で、「あなたの現在の希望に関わらず、あなたが船員として就職した場合に、就職先の企業に期待することはどのようなことですか」だ。こちらも全体の回答では「給与・福利厚生」「労働時間・休日・休暇」への関心がとくに高いという結果になった。4大生では給与など待遇面での期待が大きく、短大生では休暇等への期待の方が大きい。さらに、船内生活の充実や良好な人間関係といった船員ならではの項目への期待が高い。

第四問は船員として就職する場合の不安に関する質問で、「もし、あなたが船員として就職した場合、不安に感じることはどのようなことですか」だ。不安に感じることとしては、船員としての技術的な面よりも人間関係、安全性（事故・災害・病気）、海上勤務における家族との関係や結婚生活などに関するものが上位を占めた。パワハラやセクハラを人間関係の不安に加えると不安材料としては圧倒的な不安材料となっている。なお、4大生と短大生を分けてみると、4大生では「安全性（事故・災害・病気）」「家族との関係・結婚生活」が多く、短大では「人間関係」が群を抜いて多くなっている。

4. キャリアプランと海上勤務の年数

第五問は船員としてのキャリアをどのように考えるか、そして海上勤務をどの程度の長さで行いたいのかの質問で、「もし、あなたが船員として企業に就職した場合、船員としてどのようなキャリアプランを考えますか」と聞いている。全体では、「定年まで」が34.2%を占めたのに対し、「一定年数。海上勤務を経験した後、陸上勤務にシフトしたい」が29.7%、「結婚・子どもの誕生を機に陸上勤務にシフトしたい」が22.3%を占めている。とくに女性では、「結婚・子どもの誕生等を機に陸上勤務シフト希望」が54.7%を占めている（表1参照）。

表 1. 10年単位での希望する海上勤務年数

	回答数	1～9年	10～19年	20～29年	30年以上
全 体	283 100	94 33.2	113 39.9	62 21.9	14 4.9
うち男性	264 100	84 31.8	105 39.8	62 23.5	13 4.9
うち女性	19 100	10 52.6	8 42.1	0 0.0	1 5.3
学校種別					
4大	228 100	81 35.5	97 42.5	47 20.6	3 1.3
うち男性	212 100	72 34.0	90 42.5	47 22.2	3 1.4
うち女性	16 100	9 56.3	7 43.8	0 0.0	0 0.0
短大	55 100	13 23.6	16 29.1	15 27.3	11 20.0
うち男性	52 100	12 23.1	15 28.8	15 28.8	10 19.2
うち女性	3 100	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3

注：セル内の上の数値は実数（単位：人）、下の数値は割合（単位：%）

一方、学校種別でみると、4大生では「定年まで」が22.3%、「陸上勤務シフト希望」が63.9%であるのに対し、短大生では「定年まで」が59.3%、「陸上勤務シフト希望」が32.1%と大きな違いをみせている。

海上勤務の希望年数を10年単位でみた場合、最も高いのは「10～19年」で39.9%を占め、次いで「1～9年」が33.2%となっている（表1参照）。20年以上の勤務を望んでいるのは26.8%にとどまり、女性では1名しかいない。また、学校種別で見ると、4大生が比較的短めの勤務年数を希望しているのに対し、短大生が長めの勤務年数を希望している傾向が見られている。

3. 船員としての就職希望、海技資格の取得意向

第六問から第九問は、船員としての就職希望や、海技資格の取得意向について尋ねている。第六問はそして海上勤務をどの程度の長さで行いたいかを質問している。第六問は「あなた自身は、船員として企業への就職を希望しますか」と聞いている。全体で船員として企業への就職「希望」する回答者が69.1%を占めた。学校種別では4大で「希望」が56.6%であったのに対し、短大での「希望」は95.4%と約40ポイント高くなっている。2年次からコース分けがなされることから、船舶職員養成コースを志望していない可能性のある学生を含む神戸大学海事科学部の1年生を除いても4大で船員就職を希望する学生は65.5%であり、短大に比べると大きな差がある。

第七問では、船員希望の学生に対して「あなたが船員を希望しているのは、なぜですか」という質問がなされている。希望する理由として挙げられたのは、全体で「給料が良いから」（61.9%）、次いで「海や船が好きだから」（56.5%）、「やりがいのある仕事だから」（40.7%）と続き、上位3つの理由は4大と短大で同様である。

希望分野をみると、学校種別で異なり、4大では「外航」（81.6%）、「フェリー／旅客船」（43.0%）、「内航」（24.1%）。短大では「内航」（83.5%）、「フェリー／旅客船」（33.0%）、「外航」（10.0%）の順になっている。

他方、第八問では、船員を希望しない学生に対して「あなたが船員を希望しないのは、なぜですか」という質問がなされている。希望しない理由として挙げられたのは、全体で「陸上勤務を希望」（141件・48.0%）、「他の進路を希望」（123件・41.8%）と「陸上勤務」、「他進路」希望が群を抜いている。「他の進路として希望する分野」には、造船、エンジニア（9件）、進学（8件）、航空、物流、メーカー（7件）などが挙げられた。

なお、海技取得の意向について尋ねた第九問（「あなたは、海技資格を取得したいと思いますか」）に対しては、全体で約8割（77.1%）。4大で約7割（68.2%）、短大では9割以上（96.0%）が取得を希望している。海技取得については船員としての就職希望よりも多く、船員希望でない者も海技資格取得の意向があることがうかがわれる。

海技資格の取得理由としては、「船員を希望するから（就職などで必要、有利を含む）」（理由を記載した 608 件中 326 件）、次いで「役に立つから（一生使える、便利だから、武器になるから）」（同 94 件）、「仕事の選択肢が増える、仕事の幅が広がるから」（同 67 件）と続いている。一方で海技資格を取得しない理由としては、「船員を希望しないから」（理由を記載した 123 件中 48 件）、「必要ないから」（27 件）などが挙げられた。

5. 考察

就職活動にあたっての情報、就職への期待に対する回答を見ても、学生の多くが業務内容よりも「待遇」と「ワークライフバランス」について言及している。たとえば内航船では学校では習わない荷役業務が行われることなど、学生が必ずしも船員としての業務内容について知っているとは限らないものの、待遇や職場環境に比べれば業務内容に関する情報量が多いことが関係しているとみられる。

その反面、「待遇」と「ワークライフバランス」は会社によってまちまちであることもあり、情報がなにより不安を学生たちに与えてしまっているのではないだろうか。こういった情報の非対称性は働き手の劣化や志望学生の減少を招く可能性がある。待遇やワークライフバランスの確保に自信のある船社が積極的に情報を公開していくことで優秀な学生を船員に招き入れる好循環を生むことができると考えられる。また、そうでない船社には待遇やワークライフバランスの向上への取り組みが求められる。

船内生活の充実や人間関係の問題についても同様である。ちなみに、給料に関しては内航船員の給料も他の職業に比して悪くない（高卒後、海技資格取得後に年収約 500 万円といわれる）。たとえばこの点についてはより積極的に、「同世代より稼げる」ことを伝えてもよいのではないだろうか。

また、船員としてのキャリアプランについても雇用側も考えていく必要があるだろう。調査結果から見られるとおり、船員として就職したからといって、必ずしもずっと船に乗っていたいと希望しているわけではない。一定年が経ったのち、もしくは結婚や出産といったライフステージごとに陸上勤務へシフトできる仕組みを模索していくことも、今後日本人船員を輩出していくために必要なことであると考えられる。

なお、本調査の詳細な結果は日本海事センターのウェブサイトから見るることができる。ご興味のある方はぜひそちらをご参照いただきたい。